

学生と市民が共に考える 「生涯学習による地域・社会的課題の解決」



DATA

● 主な連携先・メンバー

堺市生涯学習課／堺市生涯学習交流サロン(市民)

● 活動地域

堺市

● 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 1 地域課題・社会的課題の解決に向けて、講師から学ぶ機会を市民に提供することを目的とする
- 2 市民と学生がイベントを企画することで、生涯学習することを目的とする



連携にいたる経緯

3年間継続してきた「堺の歴史・文化・生涯学習」講座を終了し、より地域のニーズにあった内容で、関西大学の教員、学生と市民が地域の課題に取り組むことにより連携を積極的に進めることで、多様な交流を生み出すことができる内容に変更した。

活動内容

初年度は、自転車の堺を考えるために、「今、自転車がおもしろい」をテーマに、シンポジウムを開催した。堺自転車のまちづくり・市民の会代表の中村博司さんの基調講演のあと、大阪でタンDEM自転車を楽しむ会会長の鈴木昭二さんと関西大学人間健康学部教授杉本厚夫とパネルディスカッションを行った。また、関西大学堺キャンパスからJ-GREEN堺まで、健康サイクリングの実践とBMXによるパフォーマンスの実演も行った。

2年目は、くらしの健“幸”「話そうよ、つながろうよ！地球のなかま」をテーマに、外国人留学生や堺市で暮らしている4人の外国人の方から自国の食文化や生活スタイルについて話を聞き、それについてグループディスカッションを行った。また、中国で創案されたニュースポーツ「太極柔力球」を参加者全員で体験した。

http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/shogai/kouza/kouza_etc/H29kanndairennkei.html



活動の成果

- 1 学生と市民がともに事業を企画・実施することで、世代間交流を促進するとともに多様な立場から地域課題・社会的課題を考えることで、市民がより身近に感じる内容で学習の機会を提供することができた
- 2 事業の企画から実施までを協力して行うことで、自らの行動で堺の未来をつくっていくという気持ちを育むことができた

今後の課題・目標

- 1 市民が関心を持つようなテーマをどのように設定するのが課題である
- 2 企画する過程で、コミュニケーションをとることが、それぞれの生涯学習になっていくことを目標とする

● 教員紹介



人間健康学部 教授 杉本 厚夫(すぎもと あつお)

子どもの遊びや生涯学習による地域づくりについて研究をしている。近著『かくれんぼができない子どもたち』